

知性・情操・健康・友愛の調和のとれた発達を目指す

田辺中だより

さらなる高みを目指して ～自主・自立・創造～

京田辺市興戸北鉾立 21 番地 TEL:0774-62-0021 FAX:0774-62-5099

ホームページ URL【<https://www.kyotanabe.ed.jp/nc3/tanabe-jh/>】

No. 3 令和 7 年 5 月 30 日発行

京田辺市立田辺中学校



「行事で成長 自己有用感を高めたい」

5 月は行事の季節でした。3 年生は広島方面での修学旅行、2 年生は京都市内での校外学習、1 年生は校内貸し切りでの校内学習が行われました。各学年、目的や取組内容は異なりますが、学級・学年が自分たちで決めた目標達成に向けてリーダーを中心に、当日だけでなく、それまでの学活や SELF の授業で様々な活動を進めてきました。取組姿勢や達成状況は各クラスの学級通信やホームページ等でお知らせしているところですが、学級通信に載せられた写真を見ると、どの生徒も生き生きとした表情を見せていて、嬉しく思いました。

さて、題名にある「自己有用感」とはどういうものでしょうか。よく、「自己肯定感を高める」などの言葉を聞きます。自己肯定感とは自分自身を肯定的に評価する感覚で、「ありのままの自分を認める」ということです。中学生の時期は思春期特有の状況もあり、高めていくのは難しいものです。なかなか自分に自信が持てず、劣等感や孤独感を感じる人が多いからです。

一方「自己有用感」は自分が誰かの役に立っている、貢献できているという感覚、他者から評価され、必要とされていると感じることです。この自己有用感を高めるには、子どもの行動や努力を認め、褒めることが大切です。結果だけでなく、プロセスを評価し、個人の基準で褒めることが、その子どもの「役に立っている」「自分がいてよかった」という気持ちを育てることになります。

そこで、今回の行事を振り返ってみると、リーダーとして前に立った生徒だけでなく、班活動の中で役割分担を行い、その分担をそれぞれが全うしました。行事を通じて、誰かの「こんないい面」「あんなに意外に頑張っている姿」が発見できたと思います。それをクラスや学年で共有してみてください。「ありがとう」や「すごい！」がお互いの自己有用感を高めます。また、その「ありがとう」のやりとりでクラスの雰囲気もよくなる、自己有用感が高くなると、自己肯定感も高まる傾向があるという、いいことづくめです。

ご家庭でも、今回の行事でのお子様の頑張りを聞きながら、肯定的な言葉かけをお願いしたいです。友人から、先生から、ご家族からの承認、他者からの評価は、自己有用感を高め、より一層の成長が図れます。人には誰にでも個性や特性がありますので、行事を通じて、その個性を互いに認め合いながら、成長することで、じっくりゆっくり時間をかけ、合わせて自己肯定感も育んでいきたいと思います。

教頭 磯貝 美智子

1年生校内学習 5月12日（月）

1年生は学校内で1日「校内学習」を行いました。「真の仲間とは」「どうしたら真の仲間になれるのか」という課題に対して、この日までの事前学習や当日の学習を通して解決するという取組を行いました。「人間知恵の輪」「校歌発表クラス対決」や、指定の写真を撮ってキーワードをもらう「たなログ」などでクラスの団結を図りました。



2年生校外学習 5月12日（月）

2年生は京都市内に校外学習に行ってきました。午前中は堀川今出川にある西陣織会館で漆器に色絵を付ける体験をしました。午後からは来年度の修学旅行を見据えて班別行動で京都の世界遺産を散策しました。暑い中でしたが、時間に遅れることもなく班員で協力して班別行動ができました。



3年生修学旅行 5月8日（木）～10日（土）

3年生は2泊3日の行程で広島・香川へ修学旅行に行ってきました。宮島での班別研修、平和記念公園でのピースパークツアー、呉での艦船クルーズ、金刀比羅宮での散策、手打ちうどん体験など充実した体験を行うことができました。



学校行事を含め学校生活の様子等を学校の新ホームページに随時更新しています。修学旅行の様子等ももう少しご覧いただくこともできます。「いいね」を押していただきますと学校の励みになります。よろしくお願いいたします。

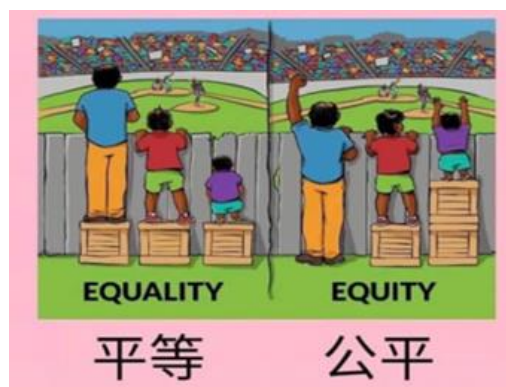
今後の予定

6月 2日(月)	教育相談月間、耳鼻科検診(AM:2年)、一斉委員会
6月 4日(水)	生徒総会
6月 6日(金)	1年生熱中症予防教室
6月 7日(土)	綴喜陸上競技大会
6月 10日(火)	テスト期間部活動停止(～6月18日)
6月 11日(水)	PTA 登校指導
6月 12日(木)	歯科検診(AM:2-8、3-1、2、3 男子、PM:3-3 女子、3-4)
6月 17日(火)、18日(水)	期末テスト
6月 21日(土)	山城陸上競技大会
6月 30日(月)	月末振り返り日

平等と公平のちがい

2年生と3年生の教室がある、南校舎1階には、右のような絵が貼られています。

「平等」とは、みんなが同じ条件で待遇されることです。これが大切なことはもちろんあります。しかし、イラストのように、人それぞれには違い(個性)があり、その違いを考慮せず、機械的に固まった考えで、例えば「平等に同じ高さの踏み台を配る」と、野球の試合が見える人と見えない人が出てしまいます。



一方、「公平」とは、人それぞれの違い(個性)を認めて、互いに補い合うことです。こうすることにより、結果において均等が保証されます。背の高い人は、踏み台が無くても見えるのだから、自分の踏み台を見えない人に回すことによって、全員が「公平」に観戦することができます。

私は、この絵を見ながら、生徒に対しての一つ一つの支援や指導も、この絵の「踏み台」と同じだと考えています。この絵の「踏み台」とは、個別、それぞれへの支援・配慮のこととなるでしょう。目が悪い人はメガネをかけるなどして視力を補う。当たり前のことです。だから、視覚に配慮を有する子へのアプローチとして、特別に掲示物を作っても良いですし、書くのが苦手な子には、ICTを活用して、板書をタイピングや写真撮影での記録で対応することも、一つの方策だと思います。

生徒指導の場面でも1つ1つの指導が、この「踏み台」と同じなのだ、と思います。

例えば、「毎回提出物の期限に遅れてしまう子」と、「たまたま1回の提出期限を忘れてしまった子」。

この2人を同じタイミングで指導をしなければいけないとしたら、同じ指導では、明らかに自然ではないと思います。『忘れないような子に』対しては、その同じ目標(上の絵でいうと、野球の試合をみること)を達成するためには、指導の仕方を変える。伝え方の厳しさを変える必要があります。

このように、生徒に説明した絵を見ながら、私たちも常に平等な指導、公平な指導ということを考えています。それぞれの生徒に寄り添える指導を第一に考えて、常に心がけていけたらと思います。

